

読書を

しよう



「読書の秋」。

皆さん一度は耳にしたことがあるこの言葉。

その由来をたどると、「とうかした灯火親しむべし」という唐時代の中国の詩人・かんゆ韓愈が書いた「符読書城南詩（ふしょをじょうなんによむ）」の一節からきてっているとされています。

「灯火親しむべし」とは、涼しくて夜の長い秋は、明かりの下での読書に適しているという意味があり、この頃から秋は本を読むことに向いている季節であると考えられていたようです。

今回は「読書をしよう」と題し、読書に対する調査結果と、普段から図書館を利用されている方に聞いた読書の魅力を掲載します。

「読書離れ」若い世代の問題？

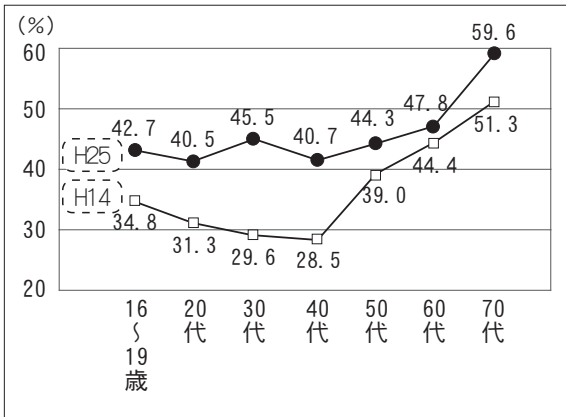
「読書離れ」という言葉を目にする機会がありますが、ほとんどが「子どもの読書離れ」「若者の読書離れ」というように比較的若い世代に対して使われることが多いのではないのでしょうか。

文化庁が実施した「国語に関する世論調査」において、1か月に読む本の冊数【図1】について調査したところ、「読まない」と回答した割合が平成25年度では47.5%であり、平成14年の37.6%から約10%増加しています。

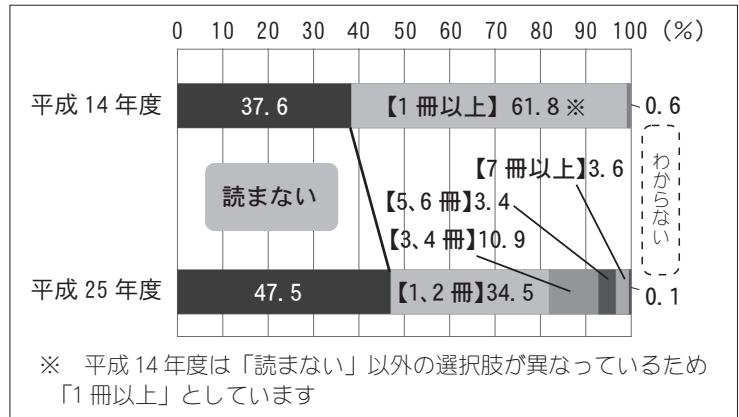
さらに、平成25年度の本を読まないと回答した人を年齢別【図2】に見ると、16歳～19歳では42.7%、20代では40.5%、30代では45.5%、40代では40.7%、50代では44.3%、60代では47.8%と、若い世代よりも本を読まない人の割合が多くなっており、全世代で読まない人の割合が増えています。今や、「読書離れ」はすべての世代に言えます。

また、読書量の変化についての調査でも、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」「情報機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコンなど）で時間が取られる」などの理由で読書量が減っていると回答した人が多く、時代の変化によって「読書離れ」が加速しているとも考えられます。

【図2】【年齢別】1か月に本を1冊も読まない人の割合 【図1】1か月に1冊以上読む本の冊数



文化庁「国語に関する世論調査」より



文化庁「国語に関する世論調査」より

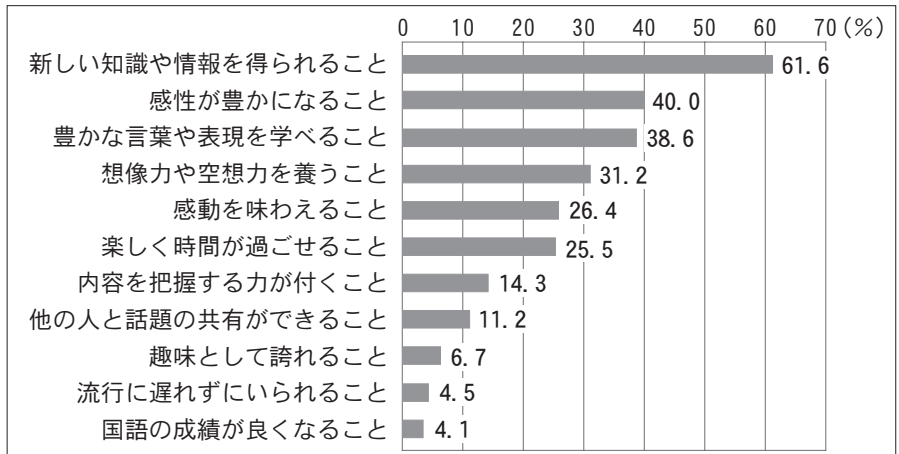
現代だからこそ読書

近年は、情報機器の利便性が向上し、要点をまとめた情報を短時間で取得できるようになりました。本を手にとり読むことは、文章を時間をかけて読むことが求められ、忙しい現代社会において読書が合わなくなってきたとも言われています。

このような時代の中でも「読書離れ」が問題となっている理由として、近年の社会的傾向において、物事を深く考える力や自分の思いを言葉で伝える力の低下が指摘されており、「読書離れ」がその要因の一つとして考えられていることが挙げられます。読書をして文字から感動を味わったり、想像を広げたりすることで、脳が活発に働くことも研究によって分かっています。「国語に関する世論調査」でも、読書をするの良いところ【図3】の調査を行っており、「新しい知識や情報を得られること」などの利点が出されています。

読書は、思考力や表現力、コミュニケーション力などを育み、個人が自立しつつ、他者との関わりを築きながら豊かな人生を生きる基盤を形成するものです。私たちにさまざまな感動と、生きる力を与えてくれます。災害時に、避難所で共有された本が子どもたちをはじめ、多く

【図3】読書をすることの良いところ（平成25年度）



文化庁「国語に関する世論調査」より

の人々の心を癒やし、元気づけたとも伝えられています。
本を開いて泣いたり笑ったり、ホッと一息つくことができる時間も大切です。秋の夜長を迎えるこれからの季節、普段本を読まない方も一冊手にとってみませんか。

読書の魅力を
図書館の利用者に聞いてみました！

本から広がる世界

生きていくうえで大切なものを得ることができる本。図書館をよく利用される方に、読書の魅力を伺いました。

読書は生活の一部。
楽しいから本を読んでいます。



奥山 貴子 さん

いつも身近にあった本

「読書」を始めたきっかけを明確には覚えていませんが、小学校高学年か中学生くらいのにきにシャーロック・ホームズを学校の図書室で借りて読んだことを覚えています。元々、外遊びをするほうではなく、本を読むことが好きで、紙に書いてある字は何でも読みました。私にとって、本を読むことは特別なことではなく、日常であり、習慣でもありました。

今では、ジャンルを問わず本を読んでいます。図書館に来る

と、さまざまな本があつて退屈しません。面白そうな本を手にとって読んでみますし、話題の本が図書館にあるかどうか探したりしています。また、新聞の書評欄に載っていた本も探したりしています。そういうところに掲載されている本はだいたい面白い。好きな作家の本を探さただけではなく、書評欄も本を選ぶ参考にしています。

読書から得ること

本は「必要だから」ではなく、純粋に「楽しむため」に読んで

と思います。

本の「楽しみ」を探す

今は、本のほかに「楽しみ」がたくさんありますが、本のよいところは世界の幅が広いことです。図書館にはいろいろなジャンルの本があり、利用する際には、「楽しみ」を探しに来てほしい。私は、図書館に行ったら当日返却された本のコーナーを最初に見に行きます。誰かが借りた本は面白いのかな、とのぞいて、「楽しみ」を探しています。

私にとって、読書は生活の一部で、楽しいから本を読んでいますし、これから本を読む時間をできる限り作り、たくさん面白い本を読みたいです。皆さんにもぜひ本が持つ想像の世界を楽しんでほしいと思います。

ほしい。読んだら面白いことがありそうだと思うって手に取ってほしいと思います。もし、面白い本に出会ったら、この作家の違う本を読んでみるのです。そのような読み方ができたら読書はきつと面白くなります。こうして初めて「読書」というものが成り立つと思っています。それから、お母さんたちにはぜひ子どもに本を読んであげてほしい。児童書として発行されているものでも内容が深く、大人が読んでも面白い本がたくさんあります。アニメや映画になっている作品でも、原作と内容が微妙に違ったりするので、比べながら楽しく読むことができると思います。

今の子どもたちは、ゲーム機の小さな画面ばかり見えています。本の世界は、映像だけの世界とは違って、言葉を頭の中で絵にして想像する世界です。最近ではじめの問題などもありますが、自分がこんなことをされたら嫌だと想像できない子が多くなっているような気がします。言葉が人を傷つけることもありますが、反対に優しくすることもできます。このような想像力が、読書の中で養われてくれればよ



本を読むことで、いろいろな角度から物事を捉えるようになった。

谷和憲さん

読書が習慣に

50歳を過ぎた頃、電車通勤になったことをきっかけに時間をつぶすため本を読み始めました。15年ほど経ち、仕事を辞めた今では、すっかり習慣となって本を読んでいます。

普段、図書館をよく利用していて、一度に5冊ほど面白そうな本を借りていきます。貸出期間内に読めなさそうなときは、結末や結論を先に読み、面白そうな内容だったら最初から読むなどして、とにかく面白い本をたくさん読むようにしています。

人間として厚みが出る

本を読み始めて気付いたことは、一度読み出したら楽しいということ。私みたいに、50歳まで本を読まなかった人間が本を読み出したら、本当にいろいろなことがわかります。同じテーマを取り上げていても、見

度を変えるとこんなに違うのかと発見しますし、こういう見方があるんだなと感心することもあります。もちろん、それが必ずしも正しいとは限らない。自分の考えや経験と違うこともあり。いろいろな人がいるから、いろいろなことを書いているので、自分に合いそうな本を最初に手に取って、次はそうではないものを読む。ちょっと違うなと思ったときに、人間として厚みが出てくるのではないかと思えます。

また、私はテレビをあまり見ません。ニュースは新聞を読みますし、ラジオを流しておいて、気になったら耳を傾ける。インターネットでニュースを見ることもありますが、確かに情報は早いけど自分の知りたい情報だけしか出てきません。新聞などの紙の媒体だと、関連したことやまったく違う内容が近くに書いています。そして、気になっ

て読んでみたりする。知りたい情報しか見ないと、知識が偏ってしまいます。読書も最初は読むジャンルなどが偏ると思いますが、必ず間口が広がり、世界が広がっていきます。調べ物をするときでも、自分で本を借りて、調べて、分からなかったら誰かに聞く。そこで初めて理解して自分の力になる。紙の媒体の素晴らしさは、こういうところにも現れると思います。

たくさん本と出会う

私自身、これからもいろいろな本に触れて楽しみたい。知らない作家もたくさんいます。新聞に載っていたとか誰かに聞くとか、何かきっかけがないと、そういった作家を知ることありません。まったく知らなかったけど面白い本を書く人もたくさんいます。とにかく本のあるところへ行き、手に取ってみる。

砂川市のような小さなまちだと、なおさら出会う機会が少ないので、図書館をうまく使ってほしい。また、私は、小さい頃に本が身近にあっても読みませんでした。働いてからも、仕事などで必要な本しか読んでいません。自分でも、本を読み始めるのが

遅かったと思う。昔から本を読んでいたら物の見方も違っていたらうし、世界が広がっていいと思います。せつかく近くに本がたくさんある場所があるの



図書館 司書 工藤 雅子

「本」というのは、さまざまな世界の「入り口」です。外国に行くことも、戦国時代に行くことも、魔法の世界に行くことができます。それだけではありません。将棋を始めよう、編み物を始めよう、経済のことが知りたいなど、自分の生活や仕事に役立つ「入り口」になることもできます。また、入り口の役割だけでなく、そこからより深く掘り下げたり、広がっていくこともできます。まずは自分の好きな「入り口」に立ち、そこからどんどん世界を広げてほしいと思います。

図書館をご利用ください！

- 開館時間 水・金曜日 午前10時～午後8時
月・木・土・日曜日 午前10時～午後6時
- 休館日 火曜日、月末、祝日(11月3日を除く)、蔵書点検実施期間中(おおむね9月の1週間)、年末年始(12月28日～1月3日)
- ◎ 貸し出し中の本の予約などができるインターネット新サービスもご利用ください！ (詳細は広報すながわ9月1日号の4ページをご覧ください)

【お問い合わせ】 図書館☎3819

だから、利用しないのはもったいない。小さいうちからでも図書館に来て、本に触れるきっかけを作ってほしいと思います。